

V. グループワーク：私たちの保育環境にある発達の「場」を交流しよう！

表1：子どもの姿ベースの環境デザインのポイント

1	子どもの作品を大切に提示した環境 子ども達が作ったものは、額に入れたり、色画用紙を台紙にしたりして、保育室や廊下にきれいに飾ります。作った子どもが誇らしく感じられるだけでなく、それを見た別の子どももヒントを得て、自分もやってみたいと感じることでしょう。(中略)
2	イメージを形にできる環境 子ども主体で製作できる環境づくりを考えてみましょう。子どもがイメージしたことをいつでも形にしていけるような、素材、材料、道具、空間を整えていきましょう。3・4・5歳児では、複数の子どもたちが協同して大きな造形物を作る機会も増えるでしょう。保育室に広い場所を取り、継続的に遊びが発展していくような場とするとよいですね。(中略)
3	テーマ性のある遊びができる環境 ままごとコーナーに止まらず、いろいろなごっこ遊びへと展開していく時期です。お店屋さんごっこ、美容室ごっこ、電車ごっこ、病院ごっこなど、子ども達のやりたい気持ちを叶えられるよう、材料や素材、道具を整えましょう。(中略)
4	知的好奇心に応える環境 子どもの興味・関心から、探究遊びへと展開していくことが増える年齢です。例えば、香りへの興味から、いろいろな果実の香りを比べてみたり、よい香りのする鼻をすり潰して香水を作ろうとしてみたりします。様々な香辛料を準備すれば、珍しいスパイスを通して、世界の国の食文化にもふれることができるでしょう。(中略)
5	試行錯誤ができる環境 3歳以上児では、大掛かりな構成物をつくることも増えてきます。十分な種類、量の積み木やブロックを準備しましょう。また、しっかり取り組めるように、広めのスペースを取り、柵などで仕切ります。(中略)
6	対話ができる環境 遊びが協同的な学びになるっていくために、子どもたちが対話する機会が必要です。今好きな遊び、興味のあるものなどを発表する時間をつくりましょう。クラスの子どもたちがどんなことに興味を持っているか互いに知り合うことで、集団での遊びにつながっていきます。(中略)
7	自然とかかわる環境 子どもたちがごっこ遊びや色水遊びに使うことができるいろいろな草花や果樹を園庭に植えてみましょう。また、一人ひとりの運動能力に応じてチャレンジできるような、丸太でできたアスレチックや木登りができる木などもあるとよいですね。(中略)
8	知識と出会う絵本の環境 時期ごとに、子どもの興味・関心に合わせていろいろな絵本や図鑑を棚に並べましょう。友だちと一緒に絵本を見る機会も増えてきます。落ち着いて複数で読書できる場を工夫しましょう。(中略)
9	水や砂でダイナミックに遊べる環境 砂場での遊びもよりのダイナミックになってきます。大きなシャベルやいろいろな道具を種類別に準備しましょう。桶やパイプなども自由に使えるように置き、子どものやりたい気持ちを引き出します。(中略)

出典：無藤隆，大豆生田啓友編子どもの姿ベースの環境デザインのポイント（3・4・5歳児）より引用し作成¹¹

¹¹ 無藤隆，大豆生田啓友編著 子どもの姿ベースの環境デザインのポイント（3・4・5歳児）新しい指導計画の考え方 フレーベル館
2019年 34-35頁